

「都心の災害を考えるワークショップ実施と展覧会の開催」プロジェクト

代表者	橋田規子【教授】(デザイン工学部 デザイン工学科)
構成員	蘆澤雄亮(デザイン工学部 デザイン工学科)／繁里光宏(デザイン工学部 デザイン工学科) デザイン工学科3年生 プロジェクト演習Q4履修者15名

■プロジェクトの概要

地球規模で地震や異常気象などによる災害が多発している。人々の関心は以前よりも高くなってはいるが、危機感をもって対策をしている人は少ない。本プロジェクトは、大きな災害を体験していない学生が、災害についてのワークショップを行い、災害の実態調査などから、対策グッズを提案することである。3年生後期のプロジェクト演習授業(履修者15人)で実施し、学生たちの課題解決能力とデザインスキルを鍛えることを目標にした。授業では、プロのデザイナーを講師として招き、アイデアのブラッシュアップを行った。展覧会は港区総合庁舎みなとパーク芝浦にて「防災とボランティア週間」(1月16日～20日)と同時に展覧会を行った。展覧会を行うことで地域の人々に防災について考えてもらう機会を作ることも目的である。また、後日でも興味ある方に見ていただくようHPに掲載を行った(<http://donou-project.com/>)。

■教育改革研究活動助成(地域志向)活動の成果

【教育】【研究】

プロジェクトを通して、デザイン思考の5段階を実践し、デザイン実践能力を高める。

(1) 共感: ユーザーの行動を理解し、寄り添い、何が問題なのかを見つける。
→ 都心部の災害を知るために書籍やインターネット調査、現地調査などを行った。防災意識を高める、災害現場対応、災害現場からの避難、避難所生活という4つのグループでそれぞれ調査とディスカッションを行った。

(2) 定義: ユーザーのニーズや問題点、自らが考えることをはっきりさせる。
→ 実際に体験したことのない災害の体験を、リアルに想像するために「ストーリー描写法」を用いてより具体的にアイデアが出せるようにした。

(3) 概念化: 仮説を立て、新しい解決方法となるアイデアを生み出す
→ 中間発表で各学生がアイデアを報告し、プロのデザイナーからアドバイスをいただいた。そのアイデアは製品化が可能なものか、普段はどのように置かれているか、生活の中でどのように存在すべきかを明確にすることができた。

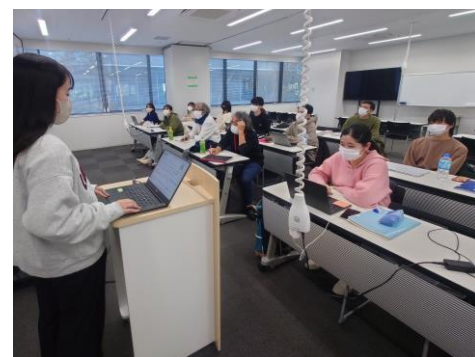
(4) 試作: 問題に取組み具現化、プレゼンボードを作成する
→ アイデアをより分かりやすく伝えるための形態、素材、プレゼンテーションなど。

【社会貢献】

2023年1月16日～20日港区総合庁舎みなとパーク芝浦にて「防災とボランティア週間」と同時に展覧会を行った。展覧会を行うことで地域の人々に防災について考えてもらう機会を作ることも目的であり、今回も、多くの人が会場に訪れていた。ブルーシートや土のうを製作する会社から問い合わせがあり、現地で説明を行った。

展覧会と作品展示の様子は、後日に興味ある方に見ていただけるようHPに掲載を作成している

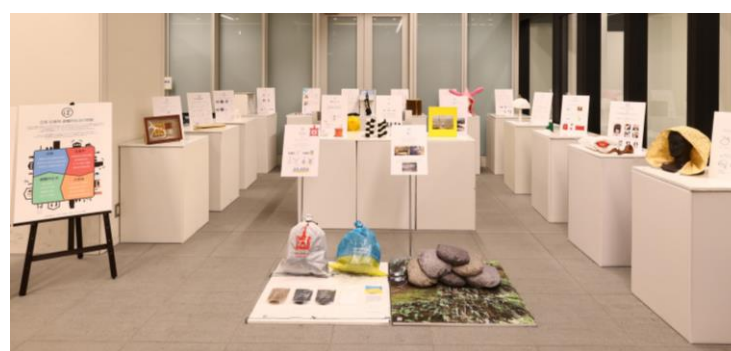
(<http://donou-project.com/>)。



【中間発表会】各学生がアイデアを報告しプロのデザイナーにアドバイスをもらう



【最終発表会】展覧会会場で、デザイナーと作品についてディスカッションをおこなった



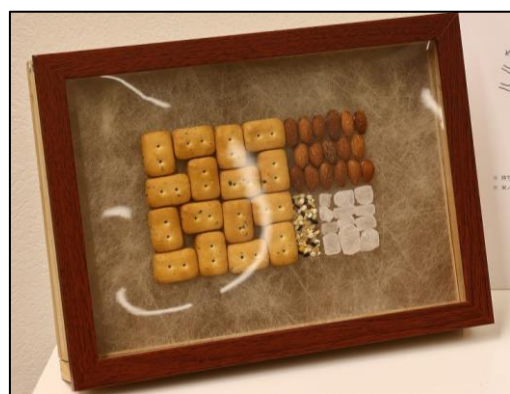
【展覧会】みなとパーク芝浦の「防災とボランティア週間」と同時に展覧会をおこなった

主なトピックス

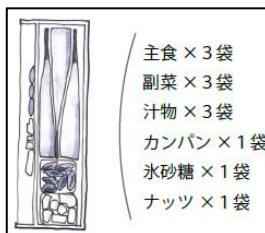
■ 日常の防災意識

問題：
防災備蓄を備えている人が少ない。
備えていても倉庫や棚の奥に保管されているため、いざという時にすぐに取り出せない。備蓄していることさえ忘れている。

対策：
Care Stockを壁に飾ることで日常的に目にするため、防災意識を高めることができる。パット手に取れるため避難時に持ち運びやすい。Care Stockは防災意識のある人が無い人に贈り、思いやりの輪が広がる。



【狩野日菜子:Care Stock】



■ 災害現場

問題：
自宅地震が起きた際に、割れたガラスや食器によって非難ができなかったり、慌てて靴下で歩いてケガをすることも。

対策：
くるくるスツールをはがしてカーペット状にし、割れ硝子の上に敷くことで安全に現場から離れることができる。災害用スリッパに採用されているポリエステル多層構造をカーペットに内蔵することでJIS規格耐踏み抜き性強度を確保。



【宮崎結衣:くるくるまるた】

■ 災害現場からの避難対応

問題：
身長の高い子どもは災害弱者とされている。避難時に身長が低いと目立たず、迷子になる可能性が多い。また、突然の災害により、ショックを受けて心を閉ざしてしまう恐れがある。

対策：
避難時に身に付ける防災頭巾にウサギの耳を付けることで大人が子供を見失わないようにする。通常の防災頭巾よりも下の部分をマントのように長くし、体を包むようにすることで子供は安心感をもつことができる。



【鈴木佳乃:アニマル防災頭巾】



■ 避難所生活

問題：
避難所での貴重品の盗難問題。家族でエリアが分かれてはいるが完全にガードができないことが多い。特に就寝時は盗難被害を防ぐのが難しい。

対策：枕を金庫代わりにしたら、安心して眠りにつけるのでは。また、睡眠時以外はバッグとしての機能があり、日中も使うことができる。



【山西健介:Safety Pillow】